従来政策とナッジ

従来政策とナッジ

○ 目的は同じでもアプローチが異なる

（例）食堂でより健康な食事をとってもらうには？

・ジャンクフードの販売禁止
・ジャンクフードに課税
・健康的な食事をとりましょうと張り紙

規制的手法
財政的手法
情報的手法

ジャンクフードは取りづらい場所に、
健康的な食事は目線と同じ高さの
取りやすい場所に配置

ナッジ

選択の自由があり、低コスト

参考：YBiT（2020）

ナッジは従来政策と相互補完的

従来政策手法とナッジの連動性

ナッジを他の政策手法と
補完的に機能させることで、
費用対効果の向上が期待

○ **必ずしも合理的でない**
等身大の人間を想定
（伝統的政策手法・経済学は合理的人間を想定）

○ **エビデンス主義**

○ **幅広い学問が理論根拠**
（行動科学、行動経済学、社会心理学等）

○ **幅広い分野に適用可能**
で応用がきく

参考：日本版ナッジ・ユニット（2019）

政策適用における留意事項

○ 費用対効果の高い手法であるが、**心理的な誘導を伴うため、健全性や選択の自由を守るなどの透明性を確保することが重要**

○ ナッジの評価軸は**人々に損害を与えるか、人々を助けるか**

引用：Thalar（2019）「実践行動経済学」

日本版ナッジ・ユニット（BEST）によるポイント

○ 私たち一人一人が自分にとって**より良い選択肢を自発的にとれる設計**になっているか

○ 私たちが自らの判断でより良い選択をとれるよう、**自身の行動や習慣を見つめるきっかけや気付き**を与え、リテラシーの向上に寄与するものか

参考：日本版ナッジ・ユニット（2019）

効果をきちんと検証評価し、多くの主体と連携の上、健全性・透明性を高めながら、根拠に基づく設計（EBPM）のもと進めることが肝要

目次

○ 概要説明 …【P2】
（行動デザイン、ナッジとは？）

○ 事業趣旨及び内容【P28】

○ 事業実績【P34】

○ 道政への適用に向けて【P91】

事業趣旨

- ナッジの活用による成果向上と定量化を推進し、道庁及び道内自治体に費用対効果の高い公共サービスを展開する

- 省庁・自治体・アカデミアなど多様な主体と連携を図り、補完体制を構築することで、道政に貢献するネットワークを整備する

北海道におけるナッジ推進チームをモデル的に運用し、必要性を検討

北海道行動デザインチームを結成

（Hokkaido Behavioural insights Team = HoBiT ）

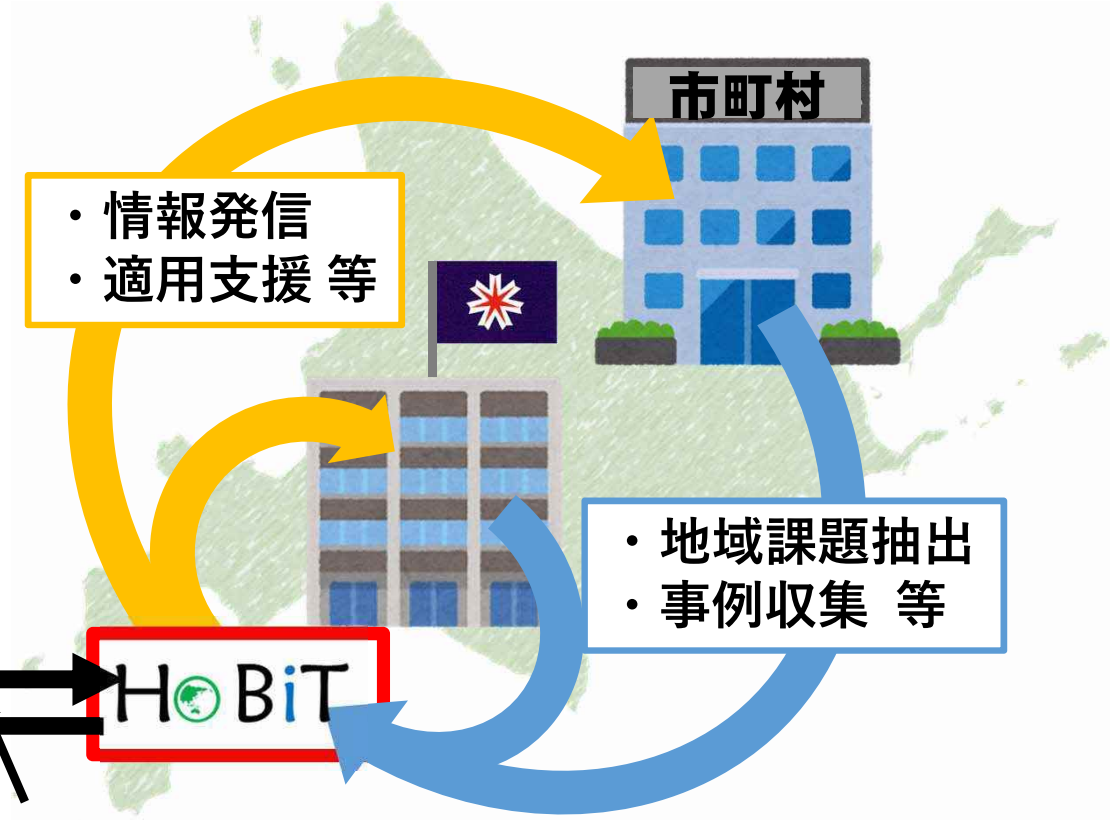
チームの目指すべき姿（将来像）

○ 下記構想（案）をベースに、**本事業ではその一部を実施**

【目的】ナッジの考え方を、道及び道内市町村等に浸透させ、費用対効果の高い公共サービスを展開することで道民に貢献する

【 HoBiT の主な機能（案）】

- 事例の情報発信
- 政策への適用支援
- 道内外のネットワーク形成
- 先導事例の創出
  → **北海道の情報ハブ拠点**



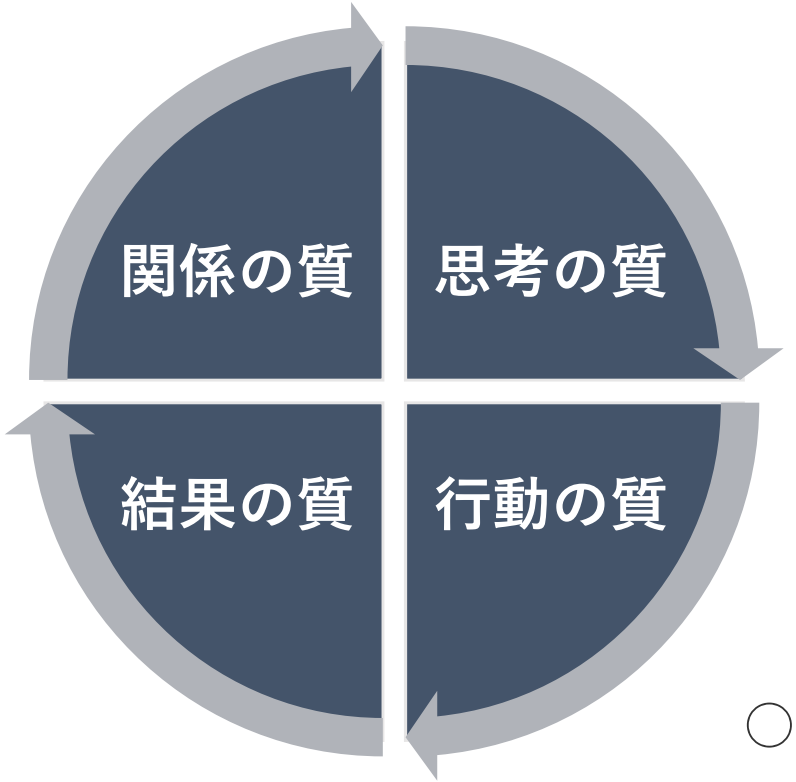
・最新事例の収集と共有
・倫理性ﾁｪｯｸ 等

（機能のイメージ）

チームの目指すべき姿（人材育成）

○ 運用上で最も重要なのは**モチベーション（熱意）の維持**
→ 機能を最大限発揮するために、あらゆる組織で大事な要素

ダニエル・キム 成功の循環モデル



◆ **関係の質**
お互いが**尊重**し、**一緒に考える**
◆ **思考の質**
気づきがある、**面白くなる**
◆ **行動の質**
自分で考え、**自発的に行動**する
◆ **結果の質**
成果が得られる
◆ **関係の質**
信頼関係が高まる

○ 組織の生産性を高めるための成功循環モデルとして確立しており、様々なビジネスシーンで応用

本モデルをチームの運用に組み込み、ワクワクを生み出し、成果を向上させるとともに、知識と熱意のある人材育成を図る

参考：Daniel H. Kim（2001）

事業内容

○ **政策への活用促進に向け、段階に応じたアプローチを実施**

→ 習得期、実践期、展開期の順に滑走路を整備するイメージ

今年度は習得・実践期を想定し、スモールスタート

習得期

ナッジを知る

有用性を理解する

ボトルネック例

・知る機会がない　・理解できない
・意欲がない　・拒否反応

① 興味関心を促す
（情報発信、普及啓発 等）

実践期

活用できると思う

実際に活用する

ボトルネック例

・イメージ不足　・職場理解不足
・失敗の不安　・公務としての倫理的な確保

② 活用環境を整備する
（事例の収集・研究、ネットワークの構築 等）

③ 先導事例を創出する
（実証実験の実施 等）

展開期

ほかの人に勧める

組織, 社会に働きかける

ボトルネック例

・事例が少ない　・組織や社会体制上の課題
・媒体不足

○ **情報発信機能、活用環境の充実化**
○ **事例実施に向けた支援の拡充**
○ **地域事例の更なる創出**
→ **多様な主体との連携によるイノベーションへ**

参考：高橋他（2020）「地方自治体におけるナッジの実装に向けた体制構築と普及戦略」行動経済学大12巻大会特別号）

事業内容

仲間を作りながら…

事業① 興味関心を促す
（普及啓発 等）

事業② 活用環境を整備する
（事例の収集・研究、ネットワークの体系化 等）

事業③ 先導事例を創出する
（実証実験の実施 等）

次年度の政策活用に向けた軌道を整備